

# 令和6年度

## 【たつの市】認知症地域支援推進員活動報告

【たつの市】認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：5名（専従：4名 兼務：1名）
- 2 認知症地域支援推進員の役割

### 医療・介護等の 支援ネットワーク 構築

- ・認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業所等関係者の連携体制構築
- ・認知症ケアネット（赤とんぼ連携ノート、認知症生活べんり帳）の作成・普及

### 相談支援 ・ 支援体制構築

- ・認知症予防普及啓発（個別相談、講座の実施など）
- ・認知症初期集中支援チームの主導・調整
- ・もの忘れ相談の実施
- ・認知症の相談支援、認知症カフェ等の支援
- ・若年性認知症の相談支援、若年性認知症交流会の開催
- ・チームオレンジの構築
- ・はいかい高齢者等見守りSOSネットワーク構築
- ・はいかい高齢者家族支援サービス（GPS貸出、はいかい高齢者等お出かけリスクゼロ事業）の普及
- ・介護マークの普及

### 認知症対応力 向上のための 支援

- ・認知症に関する正しい知識の普及・啓発
- ・認知症対応力向上研修を医師会等と共催、多職種協働研修の開催
- ・たつの市キャラバン・メイト連絡会の支援、認知症サポーターの支援



報告者氏名：前田 弥央・福井 暁子・福本 久美・半田 由紀子・野村 麻衣子

## 共生社会の実現を推進するための認知症基本法

### 【基本理念】

(1) 全ての認知症の人が、基本的**人権**を享有する個人として、自らの**意思**によって日常生活及び社会生活を営むことができるようにすること。

(2) 国民が、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び**認知症の人に関する正しい理解**を深められるようにすること。

(3) 認知症の人にとって日常生活、社会生活を営む上で障壁となるものを除去することにより、全ての認知症の人が、**社会の対等な構成員**として、意見を表明する機会及び社会活動に参画する機会の確保を通じてその個性と能力を十分に発揮できるようにすること。

(4) 認知症の人の**意向を十分に尊重**しつつ、良質かつ適切な保健医療サービス及び福祉サービスが切れ目なく提供されること。

(5) 認知症の人に対する支援のみならず、その**家族等に対する支援が適切に行われること**により、認知症の人及び家族等が地域において安心して日常生活を営むことができるようにすること。

(6) 認知症に関する**科学的知見**に基づいた研究等の成果を広く国民が享受できる環境を整備すること。

(7) 教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉その他の各関連分野における**総合的な取組み**として行われること。

## 認知症施策推進大綱

### 【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら『**共生**』と『**予防**』を車の両輪として施策を推進

## 令和6年度 たつの市認知症施策一覧

目指すべき社会

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる社会

### 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の目的

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的に推進

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（＝共生社会）の実現を推進  
～共生社会の実現の推進という目的に向け、基本理念等に基づき認知症施策を国・地方が一体となって講じていく～

### 基本的施策

#### ① 認知症の人に関する理解の増進等

- 認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座：認知症と認知症の人を正しく理解し、認知症の人やその家族を応援するサポーター養成の出前講座等を実施。認知症サポーターの自主的な活動を推進する。
- 認知症キッズサポーター養成講座：小中学校教育の中で、認知症への理解を深めるため認知症サポーター講座を実施。 ○キャラバン・メイトの活動支援：定期的に連絡会実施。
- 本人ミーティングの普及啓発 ○認知症生活べり帳の普及・活用：認知症の予防段階から状態に合わせて利用できる相談先や制度、サービスをまとめた冊子
- 龍野城・醤油の郷大正ロマン館ライドアップ ○認知症図書コーナーの設置

#### ② 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進

- はいかい高齢者等見守り SOS ネットワーク：行方不明になる可能性がある人の事前登録（ビカッとシューズステッカーの配布）、緊急時の捜索体制、日常の見守り体制の構築を図る。
- はいかい高齢者家族支援サービス：GPS 端末機を利用した所在不明時の捜索、保護サービス。
- はいかい高齢者等おたけりスクゼロ事業：日常生活に起因する偶然の事故等により他人にケガをさせたり財物を壊した事等により法律上の損害賠償責任を負った際に、市がその損害を賠償する保険に加入することで、認知症の人とその家族が安心して暮らし続けられるための環境整備を行っている。
- 安心声かけ体験講座・訓練：はいかい高齢者等への声かけの仕方を学び、地域における見守り体制を強化するための講座を実施。希望される自治体で模擬訓練を実施。
- 介護マークの普及：認知症の人の介護において、介護中であることを周囲にわかりやすくするための名札型介護マークを配付。
- 生活支援の充実 ○住宅等の環境整備 ○社会参加の支援 ○消費者被害の防止 ○成年後見制度の活用促進 ○高齢者の虐待防止 ○チームオレンジの構築
- 若年性認知症交流会（きりかぶカフェ）：若年性認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い、安心して自分らしく過ごせる場として開催。

#### ③ 認知症の人の社会参加の機会の確保等

#### ④ 認知症の人の意思決定支援及び権利利益の保護

#### ⑤ 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等

#### ⑥ 相談体制の整備等

- 認知症初期集中支援チームによる訪問支援：専門家チームが認知症の人や家族を訪問し、家族支援や助言等を行い、必要な医療・介護サービスの利用へのつなぎを行う。
- DASCを使用した実態把握訪問による認知症の早期発見 ○もの忘れ相談：専門医による認知症個別相談（年間6回）
- かかりつけ医向け認知症対応力向上研修・歯科医向け認知症対応力向上研修・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修（各年間1回）
- 認知症等に関する医師会・認知症疾患医療センターとの連携会議：年数回実施予定
- 赤とんぼ連携ノート～認知症に備える私のノート～の普及：認知症になる前から、医療、介護の情報や大切なことを書いておき、本人の希望に沿った支援、連携支援に役立てる。
- 認知症生活べり帳の普及
- 認知症連携ツール：認知症の方が入院・入所する際に、BPSD 連携表（かかりつけ医が記入）、OLS 基本情報（ケアマネが記入）で連携を図る。
- たつのカフェ（認知症カフェ）の運営と支援
- たつの市認知症カフェ連絡会：認知症の人や家族の介護負担の軽減を図るため、誰もが気軽に参加でき集う「たつのカフェ（認知症カフェ）」の運営支援を行うために、情報交換の場として連絡会を開催。（年2回程度）

#### ⑦ 研究の推進等

- 兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンターリハビリテーション西播磨病院 認知症疾患医療センターへの協力等
- 神戸大学「共生に向けた認知症の早期発見・早期介入プログラム推進研究」への協力等

#### ⑧ 認知症の予防等

- 認知症予防普及啓発：認知機能評価ツール（脳活バランス）を用いた個別相談。
- のう KNOW を活用したブレインパフォーマンス（脳の健康度）のセルフチェック。
- 認知症予防講演会（年1回）。
- 出前講座「認知症予防講座（認知症に備える）」の実施。

### 国・地方公共団体、国民、政府の責務等

- 国・地方公共団体は、基本理念ののっとり、認知症施策を策定・実施する責務を有する。
- 国民は、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症に関する正しい知識を深め、共生社会の実現に寄与するように努める。
- 政府は、認知症施策を実現するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講ずる。



# ⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み チームオレンジ立ち上げの取り組み

認知症地域支援推進員5名で情報共有し、うち2名が中心となり、チームオレンジ立ち上げに取り組んだ。

## 【事前準備】

- ・実施マニュアルの確認
- ・チームオレンジ結成チラシの修正

## 【グループ選定】

- ・認知症サポーター養成講座を受講しているグループ
- ・既に認知症の方とともに活動をしているグループ

認知症サポーター養成講座で学んだことを生かして

## チームオレンジを結成しませんか

(認知症サポーター交流拠点)

**チームオレンジとは**

- ・認知症サポーターによるボランティア活動です。
- ・リーダーを中心に、地域の中に数名のチームをつくり、
- ・認知症の人やその家族のニーズと認知症サポーターによる支援をつなぎます。
- ・資格や経験は問いませんが、認知症サポーターであることとステップアップ講座の受講がメンバーになる条件です。
- ・認知症の人もメンバーとして参加していただけます。

活動内容や運営方法について、特別な決まりはありません。  
今取り組んでいる活動をそのままチームオレンジとして続けていただくこともできます。

**すでに拠点がありメンバーも揃っているチームは？**

今までの活動を今までの場所で

- ・まちなかサロン
- ・認知症カフェ
- ・介護予防教室、介護相談
- ・趣味の活動(カラオケ、手芸、囲碁・将棋)

ステップアップ講座の受講を通してメンバーのスキルアップができる！

認知症の人や家族の手助けをください！

**拠点はなくても、メンバーが揃っているチームは？**

ご自宅や施設等への訪問支援で

- ・散歩や買い物
- ・話し相手
- ・簡単な家事と一緒に

認知症の人やその家族などだれもが気兼ねなく参加できて、自由に気軽にリラックスして過ごすことのできる楽しい場所づくりを目指します。

お問い合わせ：たつの市地域包括支援課 認知症支援係 (TEL. 0791-64-3125)  
チームオレンジの活動をサポートします。

現在、個人でのお申込みはお受けしておりません。  
リーダーを中心に数名のメンバーがおられるグループからのご相談をお待ちしています。

## ⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み チームオレンジ立ち上げの取り組み

### ①地域住民が集まる認知症カフェへ

毎週サロンを開催し、喫茶を実施。認知症の方も、このサロンへの参加を楽しみにされている。スタッフ同士で情報共有し、認知症のあるなしに関わらず皆がお互いにお互いを見守り合い、誘い合い集っている。

### ②市内の多世代交流カフェへ

スタッフが認知症サポーター養成講座を受講。認知症の方が普段からカフェを利用。スタッフ同士で情報共有し、さりげなく見守りされている。認知症の方もステージ奏者として活躍する音楽イベントを実施。

チームオレンジの説明とステップアップ講座の調整へ

# ⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取組み チームオレンジ立ち上げの取組み

## ステップアップ講座

### 【内容】

- ・講座（認知症の理解と対応、チームオレンジの活動について）
- ・グループワーク（事例をもとにチームでできること、やりたいこと）
- ・リーダーからチームの皆さんへ 等

6月20日 認知症カフェ  
(16名が参加)



### 【意見】

- ・普段からのお互いのちょっとした声の掛け合いが大事。
- ・5年、10年先を見据えて高齢者（認知症のあるなしに関わらず）が閉じこもらずに出ていきやすい地域づくりが大事。
- ・皆が気軽に集える場でありたい。

9月30日 多世代交流カフェ  
(9名が参加)



### 【意見】

- ・認知症の方に限らず、スタッフで気になる方を共有し、サポートやさりげない配慮ができるようにしたい。
- ・普段からコミュニケーションをとり、変化に気付き合える間柄になっておくことが大切。

# ⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取組み

## チームオレンジ立ち上げの取組み

### ～課題と今後の取組み～

#### ①「チームオレンジ」についての普及啓発

チームオレンジがよく分からない、何か特別な事が必要？という声を聞き、チームオレンジについての更なる普及啓発が必要

#### ②チームリーダーの活動維持とサポート

リーダーになる事に強い負担感や不安を抱かれないように、また既にされている活動が維持・継続できるように配慮が必要

#### ③チームオレンジ立ち上げ後のフォローアップ(つながり合いと地域づくり)

立ち上げるだけでなく、その後のチームの活動状況の確認やチームメンバーの変更によるステップアップ講座受講など伴走が必要

# ⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取組み チームオレンジ立ち上げの取組み ～課題と今後の取組み～

## 【今後について】

令和7年度は、立ち上がった3つの  
チームオレンジのフォローアップに取り組めます。

- ・ チームオレンジの普及啓発
- ・ 既に活動しているチームのフォローアップ

